

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成29年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
29-7	耐候性鋼橋梁の診断・補修技術の高度化についての研究開発	山口大学 教授 麻生 稔彦	B
<p><研究の概要></p> <p>本研究開発では、耐候性鋼橋梁の効率的かつ合理的な維持管理を可能とするために、耐候性鋼材の腐食の診断技術および補修技術の体系的高度化を目的とし、診断補修マニュアルの構築を目指す。これにより、耐候性鋼橋梁の維持管理費の縮減が可能となる。</p> <p><中間評価></p> <p>研究の進捗状況は概ね順調であり、研究成果の見通しがある程度期待できることから、指摘事項に留意しつつ、成果のとりまとめの方向性を明らかにした上で、現行のとおり推進することが妥当と評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 耐候性鋼材の利用と、高度なシミュレーションを組み合わせることの必要性を十分に説明できるようにしていただきたい。 2. 5段階の評点付けの検討では、単に現状の基準に合わせるのではなく、むしろその改善版（熟練技術者なら個人差の出ない評価が可能なもの）を提示することを視野に入れていただきたい。 3. 腐食判定法では、熟練技術者の評価を正解としているが、熟練技術者でも評価が分かれる場合があることから、そのような場合の対応や適用性を明らかにしていただきたい。 4. 風由来の塩分と凍結防止剤由来の塩分を区別できるのか、区別する必要があるのか、道路管理者等との情報交換等により明らかにして研究開発を実施することが必要である。 5. 成果の普及の観点からは、画像からの外観評点の評価は、最終的に学会基準等としても提案できるように整理することが望ましい。 			

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。